

互いの気持ちを尊重し合い、望ましい人間関係を築く力の育成を目指して

川崎市立下布田小学校 教諭 藤田 陽子

小学校4年 道徳 時々迷々

番組の特徴

主人公がさまざまな誘惑に直面し、道徳的に葛藤しながらも「やってはいけないこと」をやってしまう。主人公だけでなく周りの友達の立場になって自分だったら…と考えながら見ることができる。

研究の概要

一人一人に個性があり、感じ方はそれぞれであることを、子どもが実生活の中で感じ取れる場面が少なくなっている。番組を視聴して主人公やその周りの子どもに自分の姿を投影することで、新たな感情を抱いたり考えをもったりすることができる。視聴後にはそれらを伝え合うことで、自分との違いに気付いたり、考えを広げたりして共有した。望ましい人間関係を築く力の育成につなげたいと考えた。

授業デザイン（1 単位授業時間）

主 題：節度・節制・自主・自立

ねらい：自分でできることは自分でやり、節度のある生活をしようとする。

導入

番組名「もうひとりのぼく」とタイトル画面を見て、どんな内容かを考える。

番組視聴

『時々迷々』『もうひとりのぼく』

主発問

「好きなことだけできる生活はうらやましいか。」

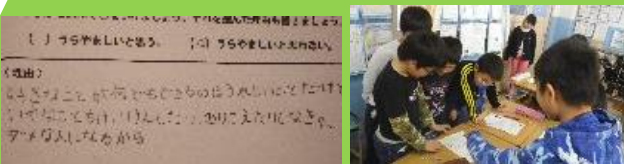
ペア交流
→発表

やりたいことだけできる生活ではダメ人間になっちゃう。

迷々に宿題も出してもらえないんじゃない？

振り返り

自分の考えをワークシートに記入して交流する。



番組や関連動画クリップの活用意図

登場人物の感情移入から考えを深める

番組のもつ世界観に子どもはひきつけられ、最後まで楽しく視聴できる。登場人物に共感することで、これまでとは違った視点で見たり考えたりすることができる。

共通の土俵に立つことで道徳的価値に迫る

分かりやすいストーリーにより、判断に迷う場面（葛藤場面）を共有することができる。その場면을自分の思いと比べたり、考えたことを共有したりしながら道徳的価値について考えることができる。

思考の可視化にかかわる教師の工夫

学習への意欲を高め、番組に寄り添う準備

番組名とタイトルの画面を提示して「どんなお話だろう」と予想した。児童の興味関心をひき、学習意欲へつなげた。

視聴中つぶやきを板書→考えるヒント

視聴中にさまざまなつぶやきがあった。話し合いのきっかけとなりそうな言葉を拾って板書し、意見交流のきっかけとした。

ワークシートを使って交流

視聴後に学習を振り返り、自分の最終的な考えをワークシートに記入した。席を移動して友達の考えを見たり、見ながら話したりして考えを共有した。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価から

- 自分だってゲームをやりたいときもある。ジーンミたいになりたくないけど、どっちか迷う。
- 好きなことだけやるんじゃないくて、苦手なことも好きなことももっと伸ばしていきたい。
- もう一人の自分ができたことが、できなかったらはずかしい。

評価シートから（全17項目10項目で有意差）

実践前後で有意差が見られた項目は以下の通りである。

- 学習を今後の生活に役立てようという気持ちになりましたか。
- 自分自身の気持ちにあてはめて考えることができますか。

実践を終えて

最初は細かな設定に気を取られて本来の課題からそれることがあったが、継続的に視聴したところ教室の雰囲気が変わり、課題に集中できるようになった。「（自分は違うが）この子はこんな思いをしたのでは。」と、他人を思いやる子、子ども同士で話し合っ解決する場面等が見られるようになった。評価シートで有意差が見られた項目からも、学習が望ましい人間関係を築く力の育成につながったものと考えられる。